

■児童・生徒の学力の状況

「全国学力・学習状況調査」の結果から、全国平均と比べて国語は2.1p、数学は1.0p（平均正答率）英語は15p（IRTスコア）高かった。昨年度と比べると国語は依然全国平均を上回り、都平均と同等であり、国語・数学ともに前回より高くなっている。学習意欲については、国語は全国基準より高く、数学、英語は全国基準と同等である。また、生活習慣や学習習慣、向社会性は全国平均と比較して低い状況である。一方、ICTを活用した学習状況や自己有用感が高い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえると、学力向上に向けて一定の成果が出ているとみられるが、個々への支援が必要な状況に変わりはなく、習熟度の低い生徒への対応は課題である。また、昨年度と同様に学習に対する意欲は高いものの受け身になる傾向がみられる。授業や家庭学習において、自己の学びを調整し、主体的に学ぶことに課題がある。
また、向社会性を高める取り組みが不足しており、生徒の体験活動を増やしていく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ①授業において主体的な学習活動を充実させ、生徒の学習意欲を高め、家庭での自学自習を指導する。
- ②生徒のタブレットを中心に、興味・関心を高める教材・教具を活用し、個性の発見と伸長を図る。
- ③補習（放課後、長期休業日等）や数学・英語における習熟度別授業を充実させることで、定着が不十分な生徒や学習進度の遅れがちな生徒の対応を図る。
- ④基礎的・基本的学習内容を定着させるため、授業規律を徹底させ、落ち着いて授業を受ける環境を整え、よくわかる楽しい授業を展開する。
- ⑤生徒が目標を持ち、自己の達成感や成就感が得られるよう英検・漢検等検定試験を受ける機会をつくる。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

主体的な学び

視点2

校内研修

視点3

業務改善

板橋区授業スタンダードを徹底し、主体的・対話的で深い学びの実践をととした授業改善をめざす。板橋区授業スタンダードS、総合的な学習の時間、委員会活動、行事、家庭学習等で主体的な学びを実践し、「生徒が自ら学習に向かうしかけ」について考え実践する。

また、教員同士でその実践を共有・振り返りをする。教員が学校課題に向けた解決策を考える主体的な学びを体感する校内研修を実施し、生徒への指導や授業改善につなげる。特に業務改善は、単に業務を減らすことを目的とせず子どものために、授業改善につなげるために教員の負担感や負担を軽減する方法を教員が自ら考え実践する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

板橋区授業スタンダードの徹底により、本時のめあて等提示による認知プロセスを可視化することで、生徒が主体的に見通しを持って取り組む姿勢を養う。また、学び合いによる相互理解を深化させ、スローラーナーへのフォローと、説明側生徒による知識の再構築という相乗効果を目指す。

板橋区授業スタンダードSの理解や取組が教員で進んでいるが、学習の進め方を委ねる場面において、何をすべきか判断できる支援について考える。

保幼小接続・小中一貫教育の推進

学びのエリアにおいて、めざす子ども像にむけた意思統一を図り、その手段として「生活の決まり」「主体性を育む授業」について議論を深める。具体的には、研究授業を年に2度見合い、板橋区授業スタンダードや板橋区授業スタンダードSについて学び、情報交換することをとおして授業改善に活かす。

また、研修等とおして、施設一体型の小中一貫型学校が区の小中一貫教育のパイロット校となり、その取組みや効果を学びのエリア・全区的に波及する下地を作る。

学校・家庭・地域の連携・協働

ボランティア部を設立し、地域やCS委員会と連携して社会奉仕の活動を意識的に増やす。また、生徒会を通してボランティア部だけでなく全校生徒にも地域活動に参加する機会を提供する。